

安全データシート(SDS)

1. 製品および会社情報

製品名	:	高真空用シリコングリース
製品番号	:	TRSG-HIV80
会社名	:	トラスコ中山株式会社
担当部門	:	PB品質保証課
住所	:	東京都港区新橋四丁目 28 番 1 号
電話番号	:	0120-509-849
Fax 番号	:	0120-509-839

2. 危険有害性の要約

GHS 分類結果

物理化学的危険	該当なし
健康に対する有害性	分類できない
環境に対する有害性	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示またはシンボル:



注意喚起語:	飲み込んだり吸入すると有害 皮膚に接触すると有害の可能性
危険有害性情報:	危険
注意書き:	
安全対策	使用前に取扱い説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで使用しないこと。 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気を吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 使用時に飲食又は喫煙をしないこと。 屋外または換気の良い場所で使用すること。 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物(シリコン混和物)
成分情報	技術情報が含まれる为非開示 GHS(世界調和システム)によれば危険有害性成分は含まれていない

4. 応急措置

暴露経路による応急措置

- 吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合： 大量の水と石鹸で洗うこと。
- 眼に入った場合： 少量でも眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。
 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
 その後も洗浄を続けること。
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当を受けること。
- 飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。無理に吐かせない。
 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状

- 皮膚： 皮膚に刺激のおそれ
- 目： 目に刺激のおそれ

5. 火災時の措置

- | | |
|---|---|
| 消火剤
使ってはならない消火剤
特有の危険有害性

特有の消火方法
消火を行う者の保護 | 粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素(CO ₂)、乾燥砂類
棒状注水、水噴霧
熱、火花及び火災で発火するおそれがある。
加熱および火災により有害な蒸気/ガスが生成されることがある。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
適切な保護具(ボンベ付呼吸補助具等)や耐火服を着用する。
特に燃焼時には有毒なガスを発生する場合があるので適合する装備を
すること |
|---|---|

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 全ての着火源を取り除く。
- 関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 密閉された場所に立入る前に換気する。
- 作業者は適切な保護具(「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、目、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

- 安全を確保してから、流出した製品が河川等に排出され、環境への影響をおよぼさないように注意する。

封じ込め、および浄化の方法及び機材

- 危険でなければ漏れを止める。
- 不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。

二次災害の防止策

- すべての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

長期間、繰り返して直接手などの皮膚に触れると刺激のおそれがある。また、眼等に触れると刺激のおそれがあるので、必要に応じて適切な保護具(「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触を避けること。蒸気・ミストを吸入しないように換気の良い場所で取り扱うこと。

安全取り扱い注意事項

取り扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

ミスト又は蒸気を吸入しないこと。

容器は密閉しておくこと

保管

技術的対策:

通常、局所排気装置等の設置は必要ない。

混触禁止物質

酸化性物質

保管条件

容器を密閉して直射日光を避け冷暗所で保管すること。

容器包装材料

破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用すること。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度・作業環境設定基準

設定されていない。

許容濃度

設定されていない

保護具

呼吸器の保護具:	吸入するおそれがある場合、呼吸用保護具を着用する。
手の保護具:	必要に応じて保護手袋を着用する。
眼の保護具:	眼に入るおそれがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具:	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

設備対策

取り扱い場所の近くに、洗眼器と身体を洗える設備を接地すること。

衛生対策

取り扱い後はよく手を洗うこと。

取り扱い場所の近くでの飲食、喫煙の禁止。

汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観:	半透明半固体(グリース状)
臭い:	微臭
比重:	0.9@20℃
引火点:	> 200℃
発火点:	350℃以上
溶解性:	水に不溶

10. 安定性及び反応性

一般の取扱い条件下では安定である。

危険を伴う重合反応は起こらない。

酸化性物質との接触を避けること。

燃焼すると、一酸化炭素、二酸化炭素、二酸化ケイ素、ホルムアルデヒドを発生する可能性がある

11. 有害性情報

製品としての有害性情報はない、成分に関しての情報は以下のとおりである。

急性毒性

経口	ラット LD50 >5g/kg(ベースオイル)(類似品より推定)
	その他材料は区分外

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

反復ばく露で、皮膚に刺激のおそれ。
眼に刺激のおそれ。

12. 環境影響情報

注意:	河川への流出を避ける。
残留性/分解性	乾燥土壤中で分解される可能性あり
生体蓄積性	蓄積性なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器および包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の規準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

航空輸送	規制されていない
海上輸送	規制されていない

国内規制

規制されていない

その他

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
容器に衝撃を加えたり、引きずる等の乱暴な取扱いをせず、転倒、落下、破損しないように積載する。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

化学物質排出管理促進法	該当しない
労働安全衛生法	通知・表示義務物質
毒物及び劇物取締法	該当しない
消防法	非危険物

16. その他の情報

引用文献	メーカー SDS 厚生労働省 職場のあんぜんサイト (www.anzeninfo.mhlw.go.jp/index.html)
------	--

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用下さい。この SDS は、新しい知見により予告なく改訂することがあります。